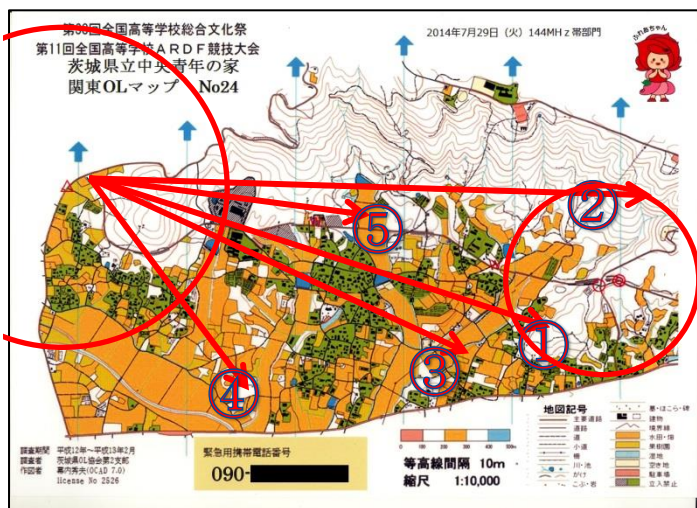


第 11 回全国高等学校 ARDF 競技大会 攻略法 全高文連アマ専門部準備会 JF3KRL 菊一好史

もう、11年目となりました全国高等学校 ARDF 競技大会ですが、今年は第 38 回全国高等学校総合文化祭として開催され、茨城県立中央青年の家を拠点に競技が行われました。今回のテレインは 2009 年に JARL の全日本大会が開催されたテレインと同一でしたが、真夏の炎天下に高校生が駆けるという事から熱中症への配慮をして 2 か所に給水ポイントが設置され、東西に大変解りやすい道路が通過し、誤ってエリア外に出てしまわないように各所に高校生のスタッフが配置されました。

では、攻略法の解説に入りたいと思います。まず、スタートは地図の最北西の端に位置し、ゴールは東端に近い所に配置されていました。スタート後、走行ラインを進むと探索開始地点となります。

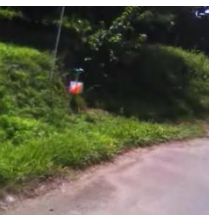


ここでは、真東側に小高い山があり地図の東西の道路から北側に山間部へ方向探索は反射が予想されますが、概ねの設置方向と TX は掴めます。私も実際に測定しましたが、左の通りの測定となりました。②と⑤が山間部から、①と③と④は道路より南側の平野部となり、①と②が弱く遠い事が予想されました。⑤は以前の全国大会でも TX が設置された工場裏と重なる方位ながらも、立入禁止表示となっている事からもう少し東側の給水ポイント付近が予想されます。これらの予想から、まず、TX④から狙う作戦となります。



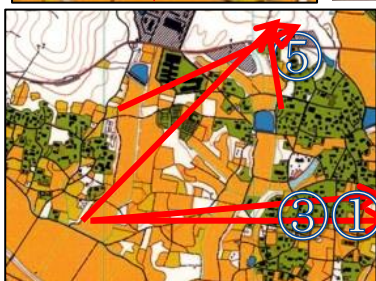
しかし、これらの測定をしている 5 分間の間に同時にスタートした高校生達は測定もせず、道を進んでしまっています。最初の測定はしないの???って感じです。

この最初の測定で概ねの位置を掴んで、ルートを考えないとダメなんじゃないのかなあ。まあ、スタートから 750m は TX が設置されていないから、駆け抜けて 750m の付近の交差で再度探索って作戦もあるのですが、私の場合は、大きな道路から南側に降りていける小さな側道を求めて進みましたが、結局見落として、交差まで進んでから右折しました。道を進みながらも TX④を探索していると、次第に交点が



交わってきます。この交点より先は水田や畑で見通しが良く、まさかそんな場所には設置される事はない事から、手前の集落を抜けた南側に的を絞って移動です。

TX④はボーナスポイント? 本当に素直に方向を出して道を進めば直ぐに見える道沿いに設置されていました。



TX④を過ぎて、次に向かう TX を決める測定で私は TX⑤を選んでしまい、平地で進める TX③と TX①を後回しにしてしまいました。TX⑤付近に給水ポイントがあるのも、弱い人間にはとても有効な誘因材料となります。

途中の道でも移動しながら、TX⑤を中心に方向を求めつつ進みます。やはり、TX⑤は給水ポイントが目印でその近くと推測できます。次第に進むと、今回の大会運営で安全を重視された結果の仇となった部分が見え出します。

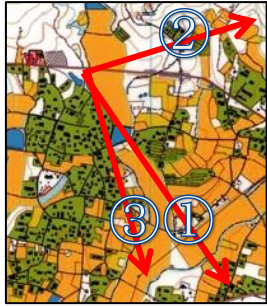


進んで道路に出る交差でスタッフのシャツを着た高校生が複数配置され、その正面には「ここに入って TX をゲットして頂戴」とポカーンと道が口を開けて待っていました。道路まで出ると、すぐ脇には給水ポイントまで設置され、安全の為に、この交差に高校生スタッフが居るのはとても不自然に感じられました。



TX⑤は、道から入って少し開けた広場がありましたが、そこでは数名の高校生が居て、距離感が十分に無かったのかその場から更に奥の小道を進むのを躊躇している様子でした。丁度、ARDF日本の植木氏もカメラを構えて撮影されていました。私が躊躇なく進んでTX⑤をゲットして出てくると、「ここにTXがあるの?」って聞かれました。確かに、手前の道であれだけ

スタッフが居ると、カメラ撮影に入りたくなりますよねえ。当然、こっそり「この奥にTX⑤で一す。」と。私の悪い癖で、このTX⑤の後に近くの給水ポイントへ進んで給水を済ませるのですが、その後が悪かった。給水ポイントから少し東に進めば南北に開けたところがあると地図読みして進んでしまいました。



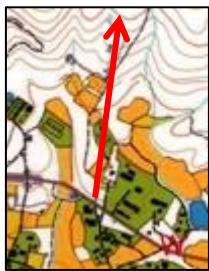
TX②はもっと道を進んだ山側だし、先にTX③と①をゲットだ!ってことで道路より南側に道なりに進むのですが、ここで大失敗です。冷静に測定して南側の集落の反射影響を計算すれば、TX③方面に先に進んでからTX①へ進むべきですが、道なりに南に進むと、TX①がガツンと強く聞こえだし、TX①に引っ張られてしまいます。頭の中にはTX③は忘れ去られていたのです。まあ、道なりに進んで素直に測定しつつ、TX①へたどり着きました。



このポイントでは、スタッフが目立って目印になる事はなく、しっかり探索して位置を求めて前までくれば、道路からフラッグが見える位置に設置されていました。私の悪夢はこの後です。何を血迷ったのか落としているTX③に向かえば平地で進めるところを再度、坂を上って北側の山に向かってしまいました。これは、



TX①から真北に強く電波が届く位置にいたので錯覚を起こしました。道を北に進んで道路に出たところで、またもスタッフに錯乱されました。TX⑤と同様に道に複数のスタッフが待機し、先の坂道を進めとばかりに居るのです。この作戦にかかって坂を上り、受水槽の裏などを疑い探すも見つからず逆に、地元の農家の方が畑の畦道に入っている女子高生に対して怒りを募らせていました。幸い、スタッフと同系色のウェアを着ていたの、丁寧に謝罪し、入っていた生徒達には「私有地に入らないように」指導して事なきを得ました。この地点で無いなら、もっと東側って事で坂を下り進む



みます。ふと見覚えのある草刈り整備された山道が目に入りました。そう、全日本大会で私はスタート後、この道を下ってテレインを駆けたっけ。なら、今回は登るしかないと突き進みます。途中、何名かの選手が下ってきます。ようやく、TX②をゲットし、振り返ると私の後姿を追って10名以上の選手が藪を進んできてゲットしていきました。フラッグ色のウェアって目立つんだなあ。サービス!!!



普通は、ここで道路に降りてゴールを目指しますが、私は今回の記事を書くために、落としたTX③を意地でも撮影して帰らねばなりません。炎天下、再度南下してTX③へ向かいました。TX①方面から測ると、微妙に



反射が出て困惑させられます。しかし、この位置であれば、TX④から素直に抜けてくると簡単にゲットできると思われ。このTX③も道を歩いていけば、見つけられる簡単な設定であった事から、TX④--TX③--TX①そして、給水ポイントを通過して、ゴール

へ向かえば3か所をゲットして比較的平地の移動だけで短距離でゴールできそうなコース設定だったようです。しかし、上位入賞を狙う選手は、如何にTX⑤とTX②をゲットして走破する体力を持つかが勝負の分かれ目です。今回は、各所に高校生スタッフが配置され、色々な目があったので選手同士の会話や明らかな追従は無かったものの、やはり測向技術や距離感の欠如や炎天下に耐えられる体力の無い選手が見受けられました。是非、世界大会でのメダル獲得を目標に日頃の練習を重ねて頂いて、力をつけて欲しいと思います。